

河内名所圖會



丹羽桃溪畫圖

河內名所圖會



河內國名不圖之有



大凡必錄古蹟况於史載著
 於國風者七多而畿內為最
 於古山嶽之知公國母於
 已以之標津河內和象此
 最著者也標京一國名不圖

此卷之少年篇，其世之新
古，其志以趨先成，以成賢
於父事，於先子，成內如環，因
說也，其竟事也，作者之功，亦
不淺解，其向志，其多，其白，其
國，名之，因之，因之，又法，其多，其

河內序

公乃題之於其卷之云
亨，和之，年，秋，有，初，志

花山院大納言兼右大將愛德卿

通為一人撰



河内名心之賦



通齋爾亞相君玉藻の事... ありお冠... お冠... 神日本...

神日本... ありお冠... お冠... 神日本... ありお冠... お冠... 神日本...

秋の色... 往駒... 彦寛... 石川... 了の川... おめ... 名の... 十二...

山川乃字者くきあはくしむは木の葉はあはれきとて
 美たはれとて原の歩はたはるるたもあはれ新のあはれ
 東の心くはるるはるるさあはれとてあはれあはれあはれ
 ちほもあはれとてあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

喜和らけの集るの社

秋里竹離岩



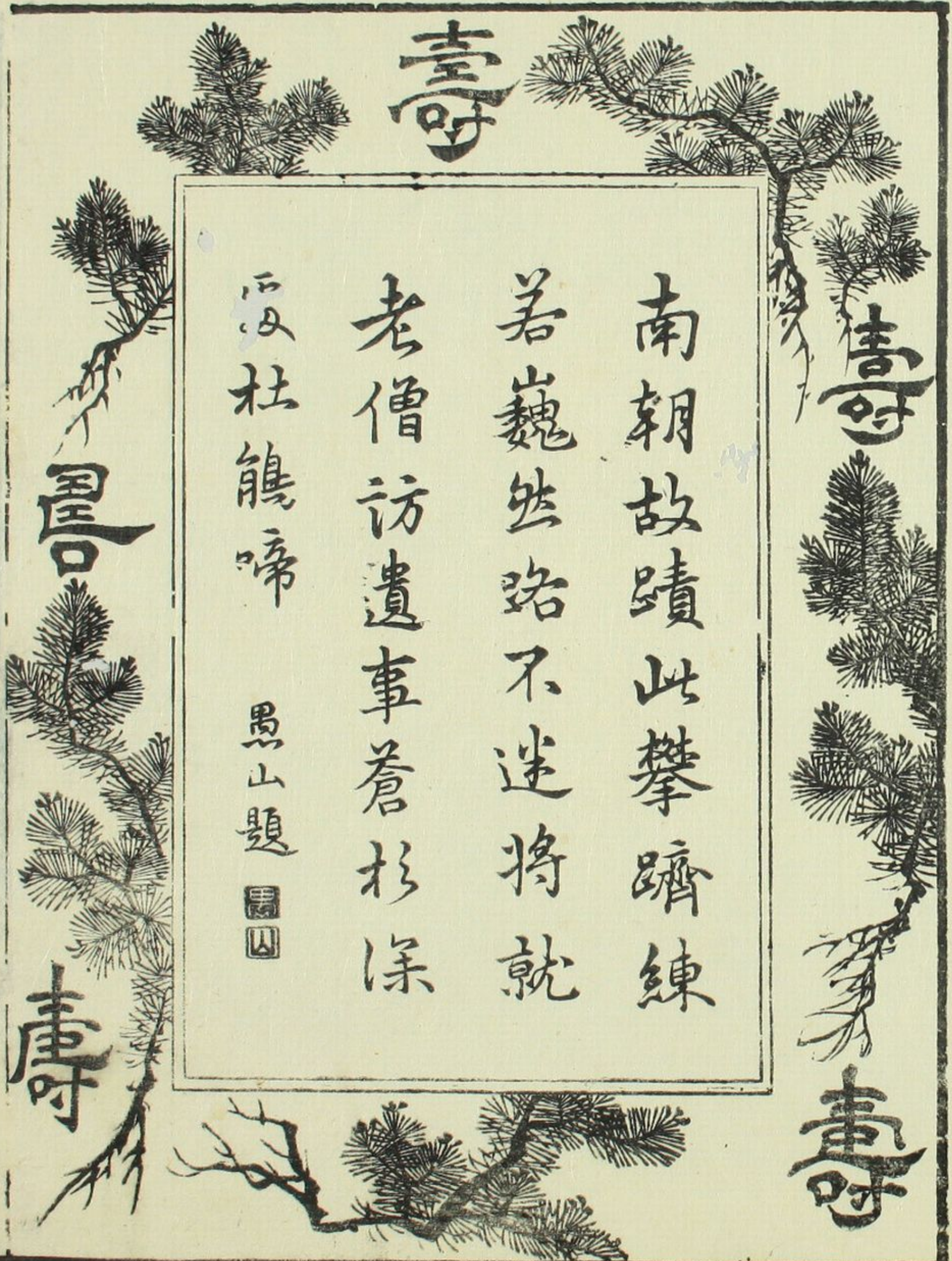
河内序ノ五

彫工井上

河内名所圖會卷之壹

錦部郡

國師之記 天野山 後村上帝行宮 南朝皇孫
 金剛寺 天野山 多宝塔 藥師堂
 護摩堂 天野山 鎮守之社 觀音亭
 樓門 天野山 觀音堂 五弁塔
 天野山什寶 天野山 觀音堂 五弁塔
 天野山 觀音堂 五弁塔
 加賀田八幡 巖湧寺 二百市驛 觀音堂
 扇山 瓜王嶺 光龍寺 觀音寺
 烏帽子形古城 上田八幡 上原八幡 高向王墓
 錦織神祠 人麁古蹟 天神祠 二十山
 横山天神 西條川 金胎寺古城 河合寺
 河合碑 南郭 鳥石山 賀行奉母社
 行者堂 鳥石山 賀行奉母社
 礼拜石 鳥石山 賀行奉母社



壽

壽



壽

壽



壽

南朝故蹟此攀躋練
 若巍然路不迷將就
 老僧訪遺事蒼杉深
 及杜熊啼

愚山題



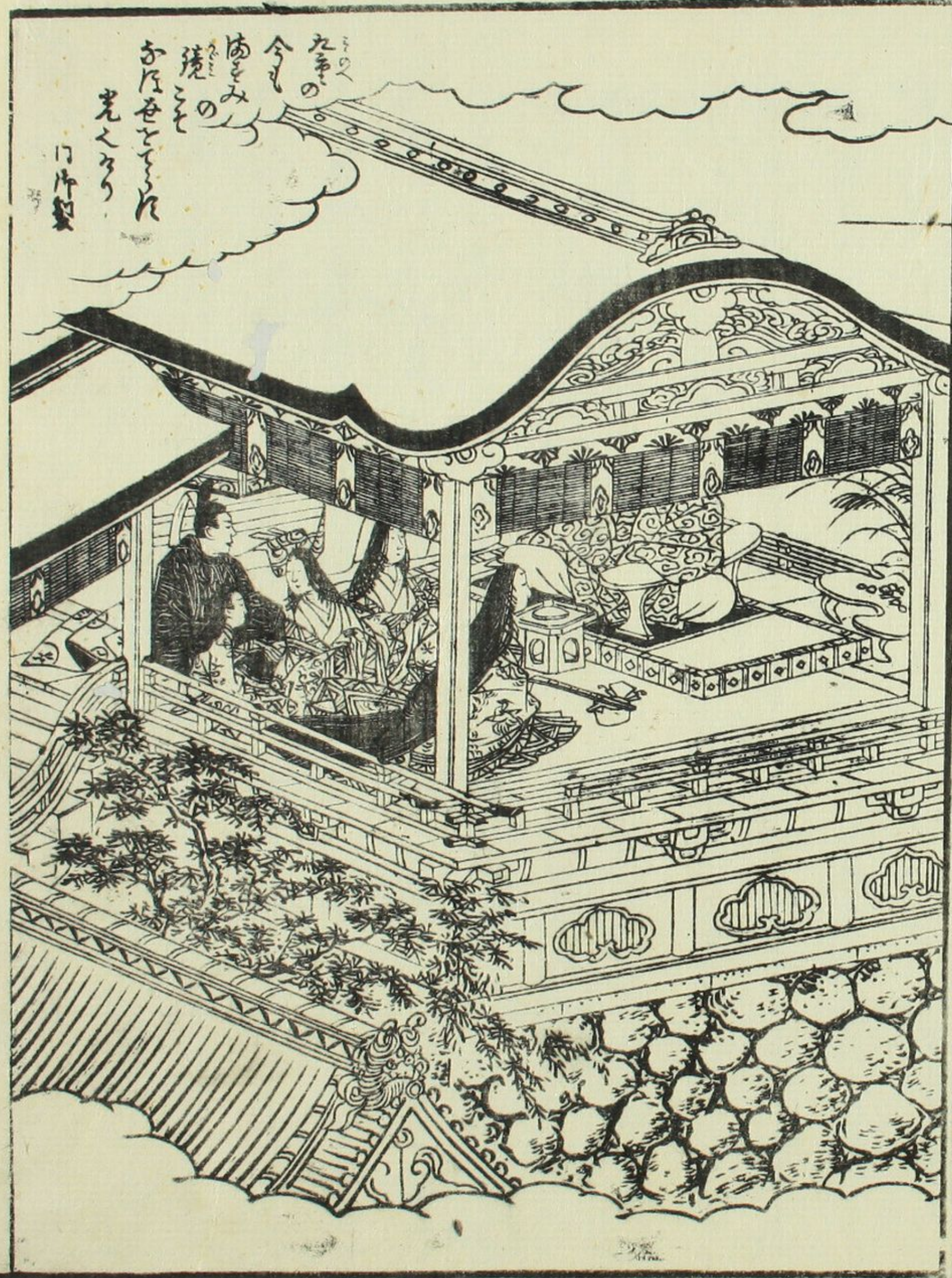
河一壹

實志上人廟
 觀心寺官符
 正儀書
 中院什室
 八幡宮
 高向齋

楠正成
 寺記
 楠氏名
 魁原
 僧善謙

證
 山尾
 守墓
 正儀書
 中院什室
 三岳神祠

高向玄理
 正行書
 法村上院



九事の
 今も
 尚ほ
 境の
 おはせとて
 光くさる
 門外製



後村上帝
 皇居
 天野殿
 觀月亭
 南方純傳云
 南幸より
 任給大臣宮ふ
 奉幣使まは
 御門三種の
 神器と作ら
 めくく許登
 四の海井
 波もあさほ
 ちりり
 ニツの寶灰
 身もせ傳ゆる
 後村上帝
 門外製

河一貫

河内の國郡(都)を和のり一河内河内國の西に封じし所にして上吉凡河内國といふ
九撮括 神武天皇東征一於時渡速々之河内國草香邑青妻
の義 白肩の津に至りてまは國早の顯れしを人皇十九代反正天皇都河内此
丹比遷都すま都く六年まは紫羅宮といは是居すまは風雨和平ふらるる
五穀成熟人民富饒天下泰平とて國皇城のありし縁也
日事記 元明帝の
御宇小詔し諸國の國郡の名を文字定め凡の字を省けり
續日 元正帝並龜
聖平四月甲子日之暮日根和來の二郡を割て始と泉國とて
類聚 延喜式云本國
管郡十四名あり錦部或作石川 石川太子傳林 古市安宿之縣養老四年十二月傳
鳥 高安俗呼恩 河内濱良 濱良一作 茨田交野若江淡川志紀丹比後
丹南 丹北後 又割此郡 出八上郡 又今管郡十六名之疆域東に和州西に按泉南に紀州の界小
至北山別の界に至る都て東西五里許南北十四里竹山嶽東に糾絡して大河
西に榮帶一に地相東南高く西に低一多水南より西に流る故小土人南とて
北と下との風俗素樸淳厚なりと著纂と好む務穡と力め尚古の風俗存に

郡部佛

婦(棉)布衣常く恒存とて新謂は内本綿と稱し租税公解延喜式に云く
此郡 出八上郡 又今管郡十六名之疆域東に和州西に按泉南に紀州の界小
至北山別の界に至る都て東西五里許南北十四里竹山嶽東に糾絡して大河
西に榮帶一に地相東南高く西に低一多水南より西に流る故小土人南とて
北と下との風俗素樸淳厚なりと著纂と好む務穡と力め尚古の風俗存に

錦部郡 東に石川郡と限り西に和州紀州の二郡と限り南に紀州伊都郡と限り
北に丹南郡と限り按 按泉の津に錦部郡の北あり
天野山 富國の津にあり泉別界の東に十八町之疆界高底同トカハ漢流の如き
五文少持 持時名の名所なりて益々聞ゆ事多し
法村上帝行宮 皇居今の食堂と稱す
新案 天野のり宮とて後付たるもの中
君そのは家もも尾も宮居しとて深しなりと都く
藤原 藤原

○後醍醐天皇 人皇九十五代 御諱尊治 後宇多院第二皇子正應元年
十一月二日誕生嘉元二年十一月九日御元服同日叙三位
德治三年九月十九日太子立文保二年二月廿六日踐祚御年二十一
同日二月十九日御即位延元三年八月十六日崩す吉野如意輪寺に葬す

尊良親王 一品中務卿 母贈從二位為子 若宮 一品 奥州宮 又号字津彦宮

宗良親王 征夷將軍中務卿 母同上号妙法院門跡尊隆還俗 興良親王 遠州宮 天野周防守為檢

護良親王 征夷將軍兵部卿初本門跡還俗 隆良親王 征夷將軍母准后親安 於吉野被誅

世良親王 号之格官尊孝母氏部卿之位同師親女 大宰帥上野太守早世 女

恒良親王 東宮前坊 母阿野中將公廉女初侍賢門院

成良親王 上野太守 征夷將軍 御諱義良一品兵部卿母新侍賢門院阿野中將廉女

後村上院 南朝 正平廿三年戊申二月十一日崩御河州檜尾山觀心寺後山榮陵

忠尊法親王 聖護院 母宰相實隆女 初号祥尊 征西將軍中務卿元中五年戊辰三月十八日薨去葬于肥後八

懷良親王 代那麓山 被誅 小園配流為名號

大覺寺宮 遠州興山法興寺角山也 入唐の人

無文和尚 南朝 御諱寬成文中二年癸丑二月御讓位 同四月八日御落飾法名金剛心

長慶院 南朝 御諱熙成母嘉吉門院勝子近衛左大臣經宗女元中九年壬申 北朝明德三年和平十月五日御讓位奉太上天皇尊号應永

後龜山院 北朝明德三年和平十月五日御讓位奉太上天皇尊号應永

泰成親王 三十二年甲辰四月十日崩御葬城州葛野郡北嵯峨福田寺後 式部卿太宰帥 後征西將軍 高福院 長祿元年十二月三日為赤松被害葬 和州吉野郡川上莊神野谷金剛寺

南帝 後村上帝即位之後 一品入道親房常陸國より神皇正統記五卷と 献せし先帝の女帝業子帝飾とありて後小戒師の青蓮院慈道法親王之

其時女帝一首の歌と尊法親王再建一詩と 女帝業子

色かゝる神のねもれかたきくもも志を神皇月うか 慈園親王

は順吉母の新奉の河内之天母の祈と皇居とを勢の楠た馬頭正儀和田 和名正武人天母殿小奉と奏聞しつる畠山入道道按東公園園の勢公率

しと干萬勝じ小京都一着くひひる山陽道の播磨と限と陸道の丹波成 境東海東山南海小陸道の兵部と号して上洛仕りたるれ故の勢公定と云

度のみくふていん但合戦も放るは使足陣方の捕とを相簡仕ては其故と 軍めさの謀公等 所謂之の時地の利のわけては中一も遠く討ち勝ありと

太正記云

南方紀傳云

三十二年甲辰四月十日崩御葬城州葛野郡北嵯峨福田寺後

式部卿太宰帥 後征西將軍 高福院 長祿元年十二月三日為赤松被害葬 和州吉野郡川上莊神野谷金剛寺

南帝 後村上帝即位之後 一品入道親房常陸國より神皇正統記五卷と 献せし先帝の女帝業子帝飾とありて後小戒師の青蓮院慈道法親王之

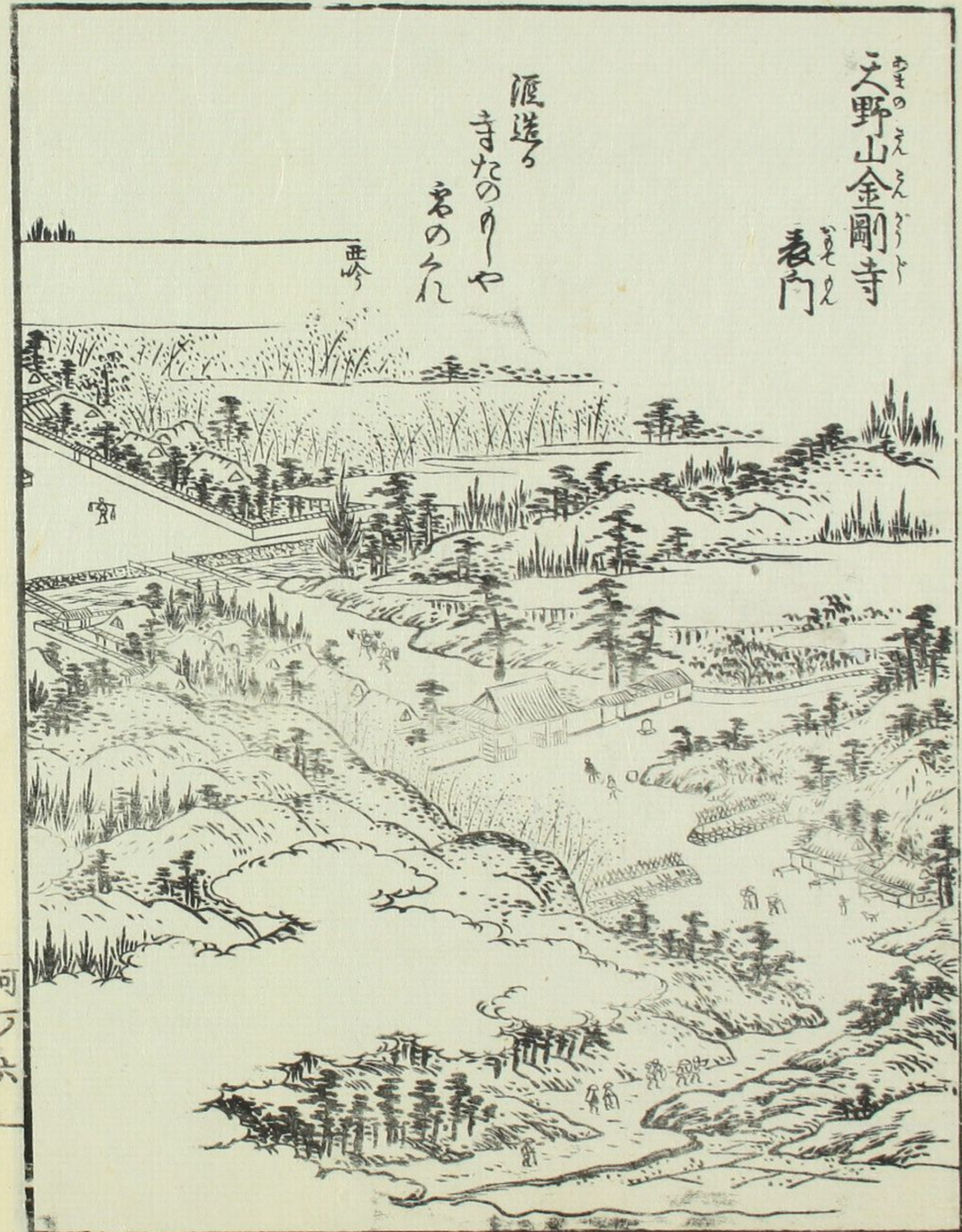
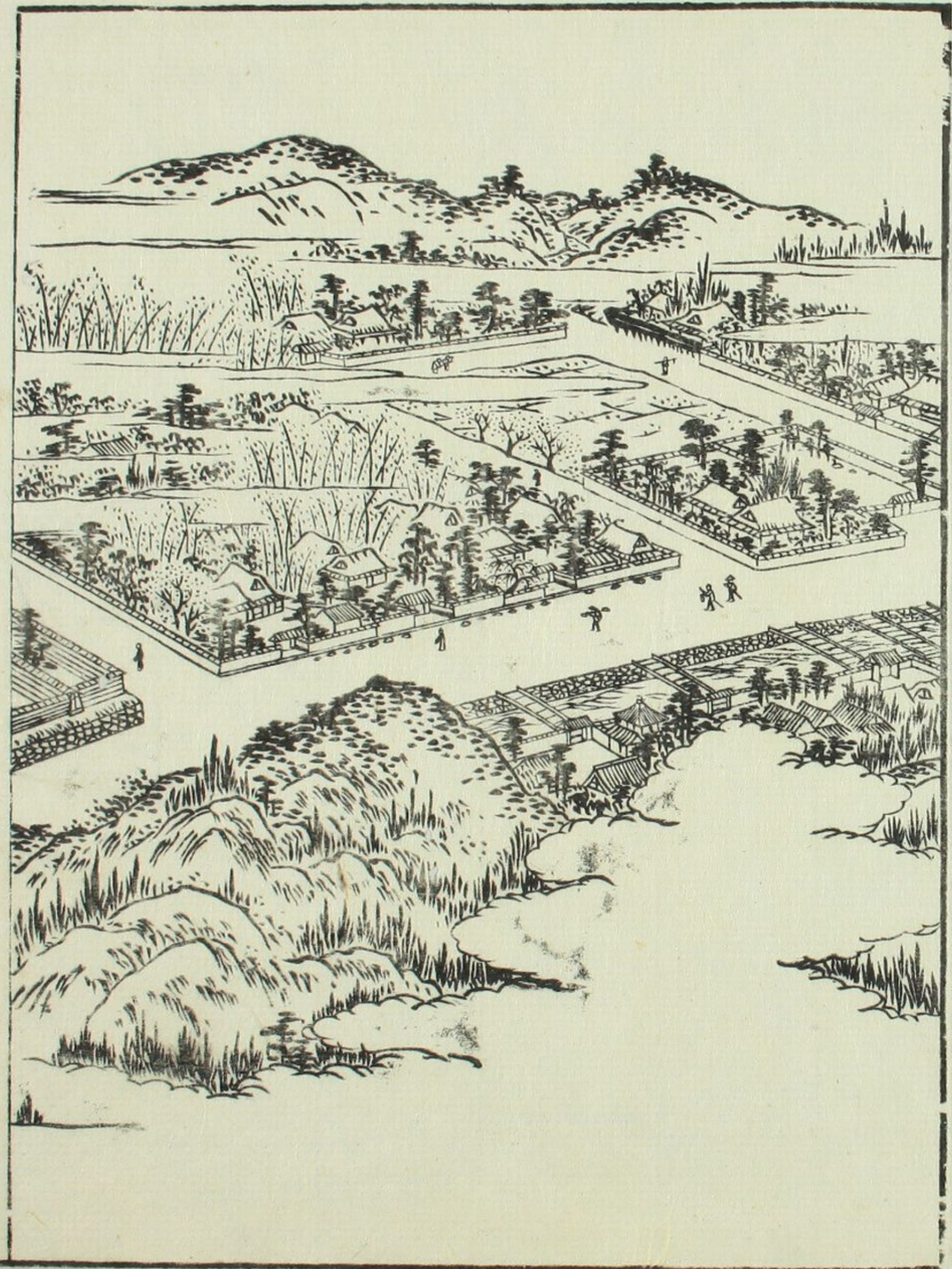
其時女帝一首の歌と尊法親王再建一詩と 女帝業子

色かゝる神のねもれかたきくもも志を神皇月うか 慈園親王

は順吉母の新奉の河内之天母の祈と皇居とを勢の楠た馬頭正儀和田 和名正武人天母殿小奉と奏聞しつる畠山入道道按東公園園の勢公率

とて持事と得てしつとていふまじの時に付て勅を明年より將
軍西みまき東より二年塞之畠山を至は後東國とて是は是の
遠れなるを次み地の利み付て案としみ河方の陣後深山に連り
ちるに兼み河の流に僅の橋を路とせりたは元弘十甲の軍中
其後建武の乱より以来細帯の同隆興の頼氏山名伊豆時氏高
師直同越後師泰今の畠山道乃松本まきまは元弘十甲及は所
勇猛とてい戦と挑ふ敵の軍遂利わたり或戸と河東の道小
敗の陣を費ひた是當山形勝の地要害便なるゆへに今とて
思案を廻し今今及畠山が上洛の便なるを以て備へ忠賞を
そいふに本細川の一族共を推威し精士岐佐を以て類も其
の心は是々の心は所とていふまじの徳に付て遠ひは縦敵百
系の勢を併せとも恐るふ足は所とていふまじの皇居に依り
金剛山の奥觀心寺と中河津を極に進せしむ正保正武寺の
河一五

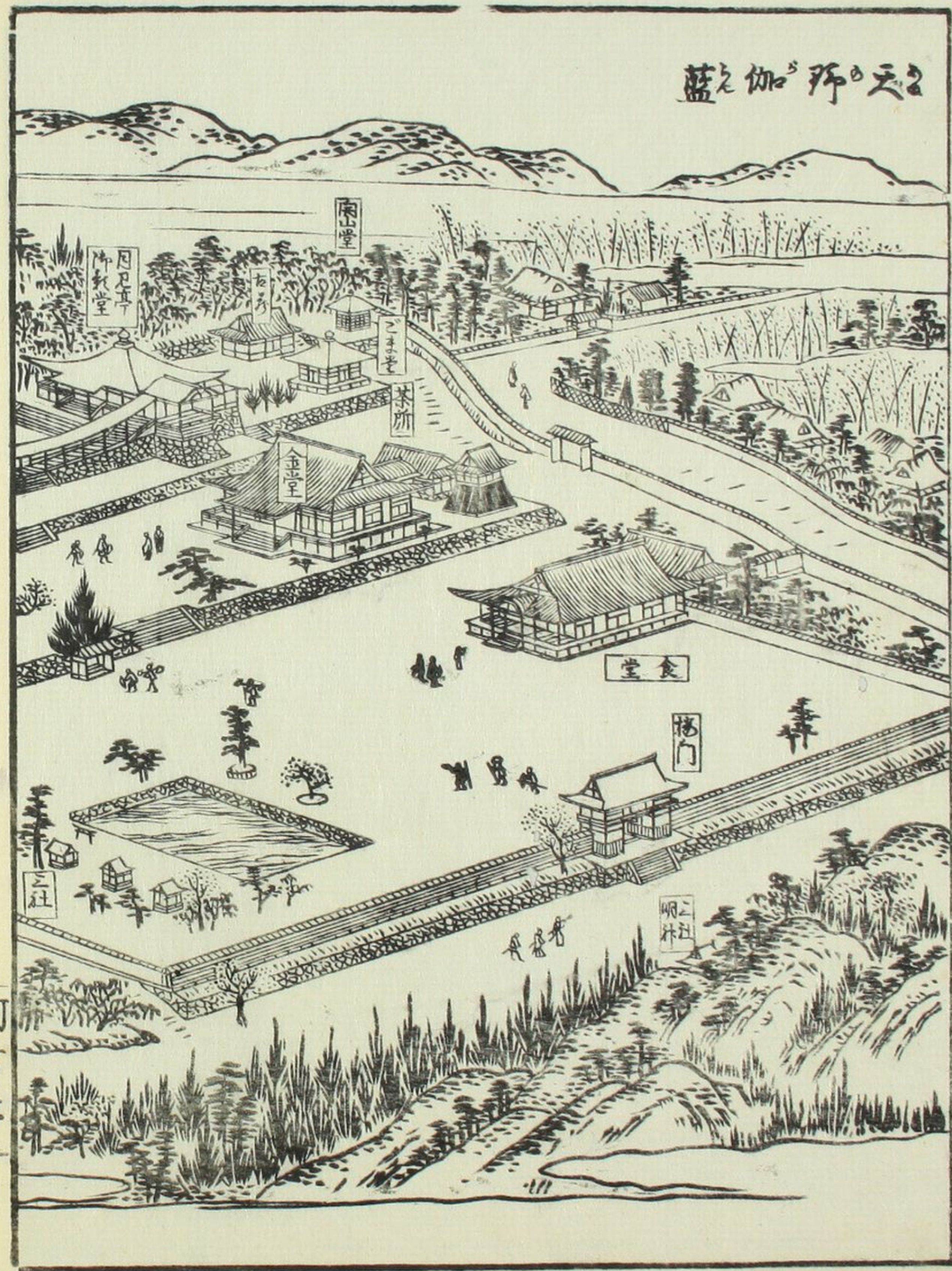
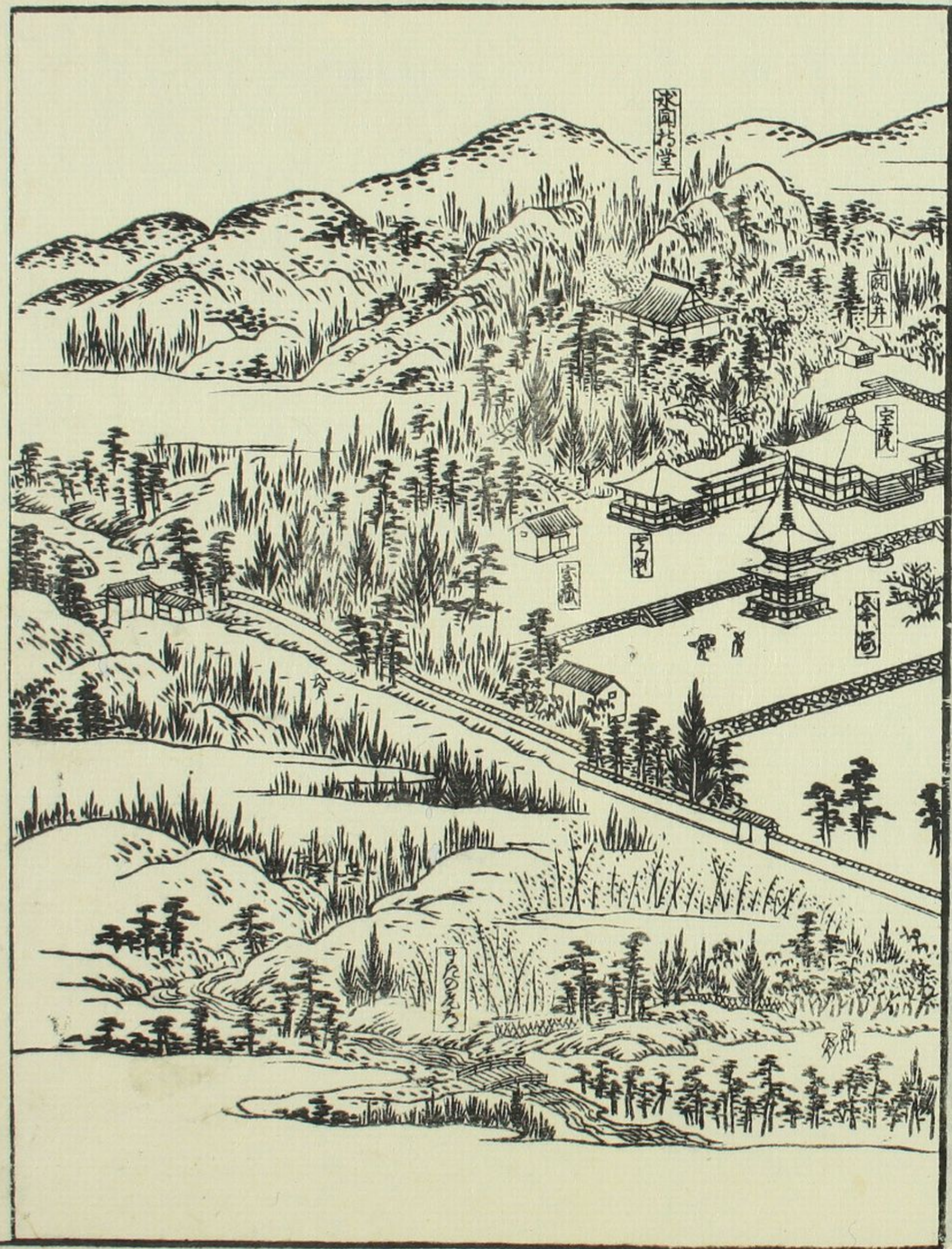
の勢に相付ひ今早金剛山より龍泉石川の多示かけ出は日
湯浅山本恩比野上山本の兵共紀伊國の守代代官中勢に付
龍門山最初を陣とて紀伊川を先きみ此伏と出し國を合
絶て然ひて種氣なる坂勢なる退屈せしむ退屈しつとて者
常く追々敵と十里の外に敵の陣とて時小國一是庶幾と
かきせしむ三上と始進せしむ進信の月卿を客とてはあ
るるに應へ觀心寺皇居極に進せしむを陳をるるを川を
はるるに應へ觀心寺皇居極に進せしむを陳をるるを川を
入皇居を具せしむは外に地を極進せしむは外に地を極進
攝政園自太政官左大臣將命納言七辨史五位後宮右大臣
上臈女房出世房官小室とて或は河津川に老若十津川の
はらげなる山賊とて小憂身とてありありの志賀の古系
白河小室の敵軍の中みははらげなる山賊とて消はるるあり

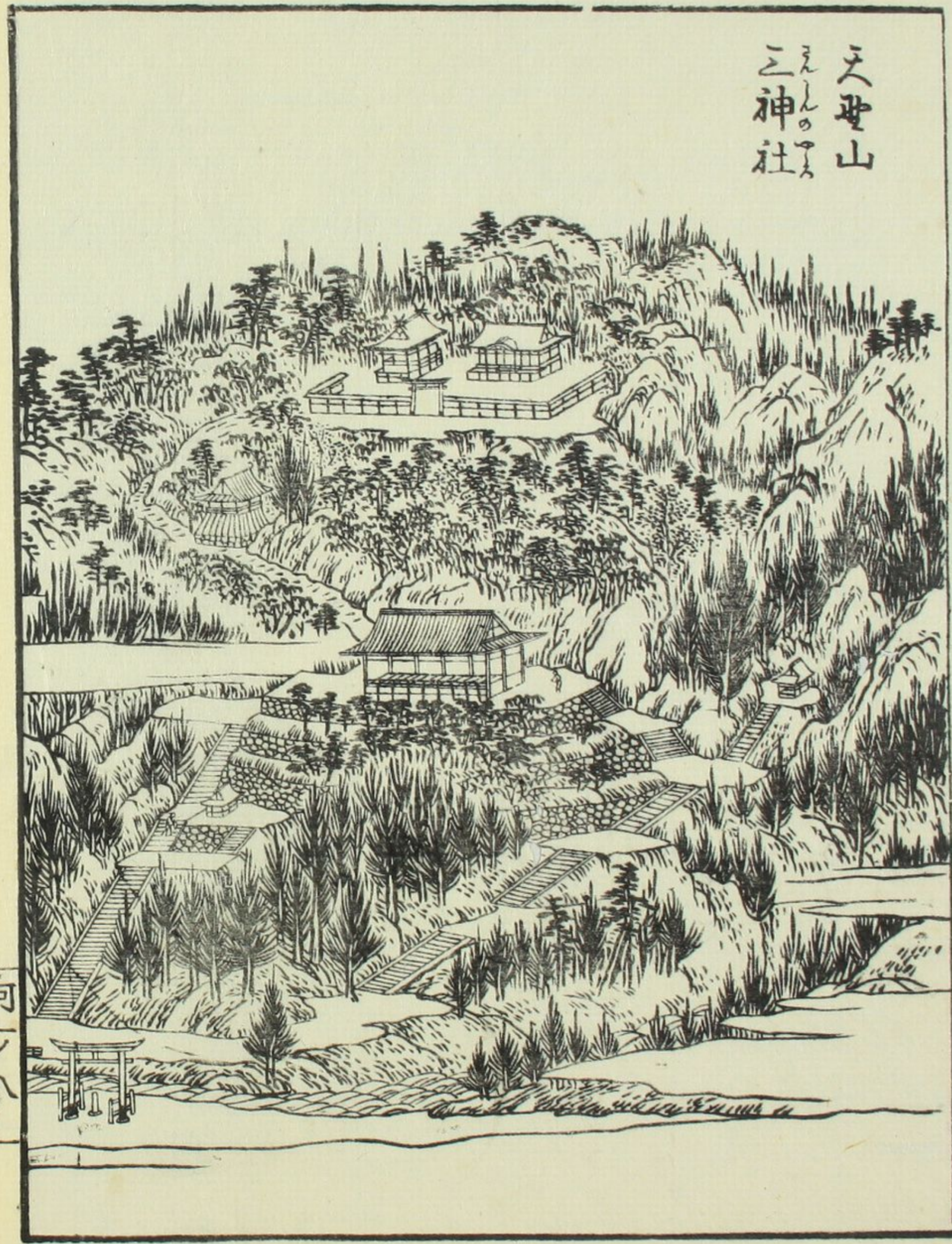
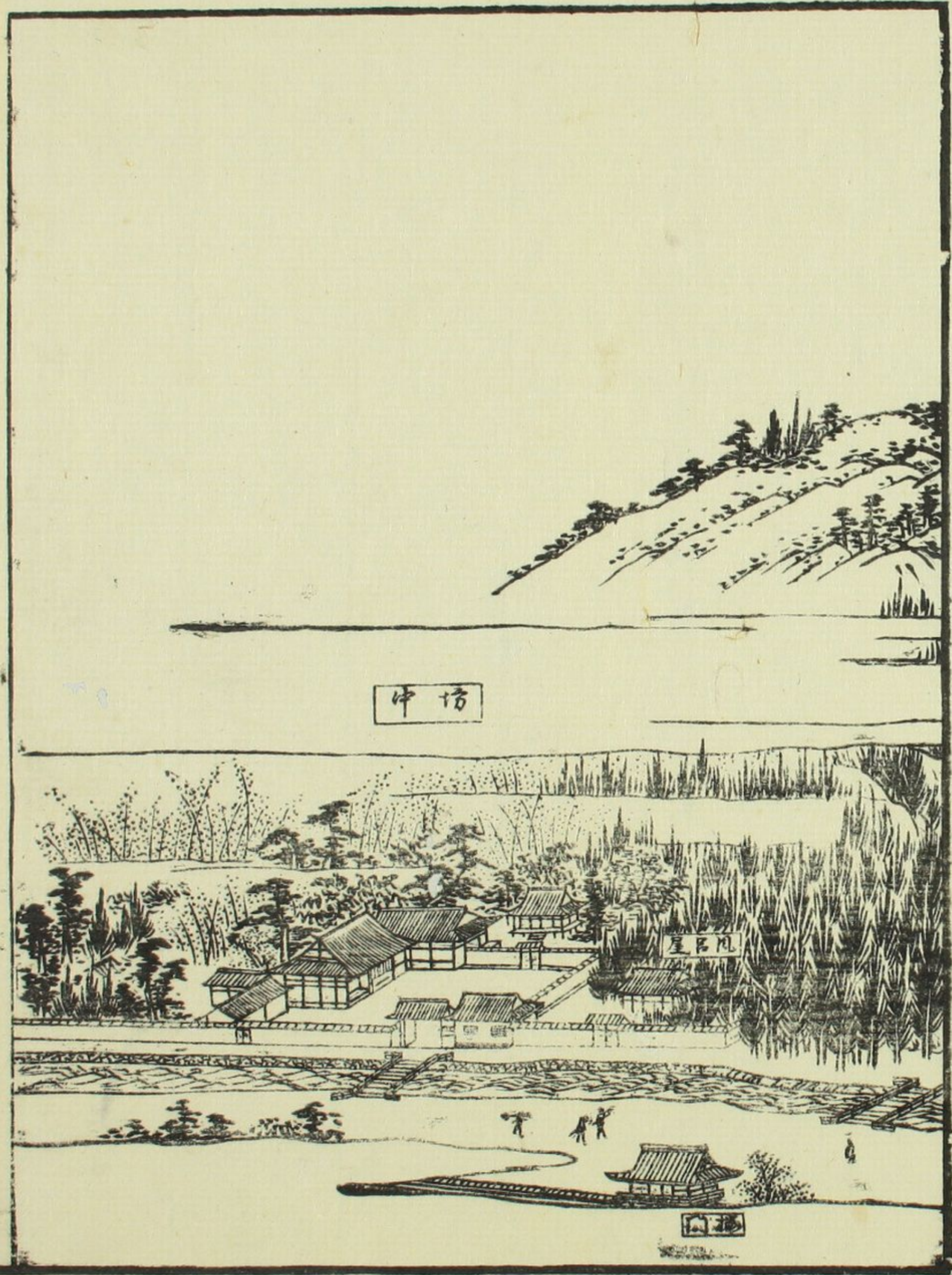


寺のえんがす
 之野山金剛寺
 表門

渡送
 寺たのりや
 君のえん

西今





天野山金剛寺三寶院

傳舎七計箇所

金堂之日如來

弘法大師の他長八尺脇士左不動明王右淨土世明王

食堂文殊菩薩

運慶の他長八尺寸宿願盧尊者堂内小安に同祀

多寶塔之日如來

法相師師の他塔中四面の淺松去檜の畫に持主大僧

藥師堂

上段の地あり本尊藥師佛と行基菩薩の他長八尺

求闍持堂

西の方上段の地あり本尊虛空藏菩薩

五佛堂

茶師堂の地あり三寶院と稱に五智如來と安し其日の地

厨伽牟

五佛堂の奥あり弘法大師加持水

觀月亭

五佛堂の小あり後村上院月見の所設今より破風の所殿

護摩堂

行基堂の小あり本尊不動尊脇士大日業師

向山塔

阿闍僧正覺心法下の

持明院法皇塔

洞山塔の上あり人王九十六代の帝

鎮守之社

南の方あり天照太神并財天

五本櫻

金堂のち

樓門

東向毘沙門特國の二天と安し運慶の他長八尺六寸

丹生明神社

樓門の東山腰あり丹生高聖社分社を併く之府内あり

鐘樓

時極入道の寄附

觀音堂

表日併所の他十一面觀世音と安し當山集會所

惣門

東向金剛が土の二王を安し弘法大師の所祀

又當山の葛城の崇園古佛轉輪の聖跡阿育王鐵塔奉収の遺域あり

て僧正行基の草創より厥后弘法大師密法流り之末瑜珈の淨懺院あり

星霜累りく四百餘年を傳ふるも聖跡不荒廢に 後白河院淨宗承元元年

紀の南の山門阿觀の表高聖明神表高聖若あり河内國天野澤に

生く廢蹟と興と下とを阿觀と云瓜瑞と云瓜錫と云瓜山に至るも箇

の教澤とるる異人岩上小墮踞に阿観をこまに何人もあはれ答く我建水か
に神天所澤み棲之阿観飲を善養と今の示理と符令をれ(翁と名に
徳をまじり方か)因茲皇隆の志願をく周謀を奏に後白河法皇敷心
儀の以善安元年のまを屋敷に憲貞を詔く再宮の向昂金堂食堂
神教堂の諸伽藍悉成就は又佛舍利を賜くこと小安一又嵯峨寺に二
皇子真如法親王の深をせ給ひ弘法大師の圖画と神教堂を安一丹生あるの
神祠を建く鎮護をく後白河院の勝をく右之將頼朝卿の所教者建之三年
八條女院牒を下く傍坊之綱七十餘坊を建く同六年在河内判官代源義重
寺領(國役諸役雜半長免除を)院宣を給へ後白河法皇再建の由致を
とつて廿二皇子守賢法親王の齋寺とを建保三年七月嘉陽門院故八條
女院の芳信之感に香風を纏ぐ女の高深を称那のふむをく學頭阿闍梨
要安を以て瑞光をく阿育王の鐵塔を感得く古佛聖跡たるまあふをれり
邦其出現の所と今塔をく元弘三年二宮兵部親王の令旨を賜て播州

あつたに祈禱の用費を給ふ建保三年十一月法醍醐帝風詔を下り東寺佛堂
の佛舍利を給ふとあふに收り延光元年十月小勅願寺に成南朝の七年北朝の上皇
當宗の孝同年八月持明院上皇尊顯御法衣と戒師と同九年南朝の皇居を
當山に極伽藍を合堂と常許殿をか楠友房に尉正儀和田和泉宮に武の英雄を
を守護するを許殿と称し同十年南帝の微君僧徒を勅て表忠傳受をくめ
有餘の御景を善附し法衣を御進の同十年持明院法衣御灌頂の志願あり
嵯峨寺の所灌頂あり付弘法大師自画の胎金志那の會を奉養をく連々本
に之禪法を下りく灌頂の所を遂其曼陀羅を初くあふに初に後村上帝
殿岡を達一泉州本庄後河山田を結縁灌頂の料を四海法宗の所修法毎年正月
をいひり同十五年申興阿観と勝僧正を任一代の聖王將軍家國の末教法を
持満の形持をんあふをくはく後白河法皇の密をく鉢磨を白雲宗和松吉賢宗を
づるを梅白して當の初を谷を研一杖子若の水を月院を松葉山園をこれに實
の聖微寺に杜詩山水の絶境を書りしを聖境といふる也

天野山什寶大畧

两部大曼荼羅

二幅弘法大師手初法中あり
持明院法皇御所附

同種子曼荼羅 中興阿觀

釋迦之尊種子

中將法皇比丘尼前製の鬘髪より
中將黒髪の曼荼羅

佛舍利 法皇御所附
東寺傳來佛舍利 法皇御所附

之三空阿育王鐵塔

日本之箇の蓋寶の其一あり
法皇御所附

最勝王經 緋紙金泥
法華經開結 光明皇后御所

之毘婆沙論

光明皇后御所
稱讚淨土經 中將法皇御所

寶篋印陀羅尼經 明惠上人
念珠之連 阿觀僧正

能作生玉

一顆弘法大師
鈴五鈷明鏡 持日大師

泥塔一基 造立
不動障之世尊 持日大師

阿弥陀佛

宅尊釋尊 張思恭
法華經法像 巨勢金剛

同講本尊 同
陀羅尼品像 北興
愛深明王 興教大師

之威德明王

多羽傍心
六觀者 阿觀傍心

弘法大師御廟出現像

觀賢傍心
後白河院の末代繪旨院宣 二十九通

後白河院の末代繪旨院宣 二十九通

右之將頼朝卿已末代之將軍家文書

早九通 大宮家文書 二通

楠左衛門尉正成自筆 二通
同正行正時正儀等書翰 十一通

寶劍

長八寸五分
同 長二尺 長九寸五分

高篠笛 壹徳太子
琵琶 銘雷林 同 式面 笙 一管 已上四種

笙

銘雷林 同 式面 笙 一管 已上四種

太鼓 鞆鼓 鉦鼓 以上三品 後村上院

古皮具足 旗指物

楠家 持物

山水屏風 同 古法眼之信

純太鼓 小鼓

六挺 同 古法眼之信

菊水旗 菊水の紋あり 又非理法憲天の 秘傳兵書 二十一帖

前是已下坊中春尼院付室

同 古法眼之信

秘傳兵書 二十一帖

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

同 古法眼之信

菊水太刀 鑑通刀 銀箔守刀 月山旭の富

正成本像 長男の形彫

愛深明王 弘法大師 不動尊 妙摩和上 屏風 一雙ハ土佐光信等

聖徳太子御影 宇治退治の像所自他其外坊中小付室多ク

天野名寿 天聖酒ひりての坊舎より造り高貴に叙と佳美人松茸出山

天聖川 天聖山寺の入口あり水漱天聖山より流ク

三日市驛 糸原難波よりの高聖街道之旅舎多クありて日の斜に侍たり

紀伊の地極 紀伊の地極より紀伊の地極より紀伊の地極より紀伊の地極より

このやれ一衣のまろくつをまろくと若狭をまろくとまの葉 真九賢参

紀見嶺 天見村の南あり紀伊伊都郡の界

島山就寛正に年の家 嶽山と退くときと過り口吟云

夏流る紀の見峠村の末も人ほくそく嘆花伝えん 長流

加賀田八幡宮 加賀田村の宮寺と赤通寺と

巖湧寺 加賀田村の南あり遠山紀伊の西界あり

本尊十一面観音 弘法大師 石浮圖 二基 鎌日弘治二年

飛泉 二流あり一と不動塔といふ一とふも龍といふ山面削るなり

潮瀧 日聖村の東あり長式十丈外岩罅より湧生に

観音寺 細聖村の東あり一と一と観音堂あり

本尊之日如来 本像長 正観音 立像長

當寺は行基大士の開基ありて天聖山同様の建營とて什寶あり

扇山 扇山の東あり扇の詩五 盪除三伏 炎暑更鳥蒼

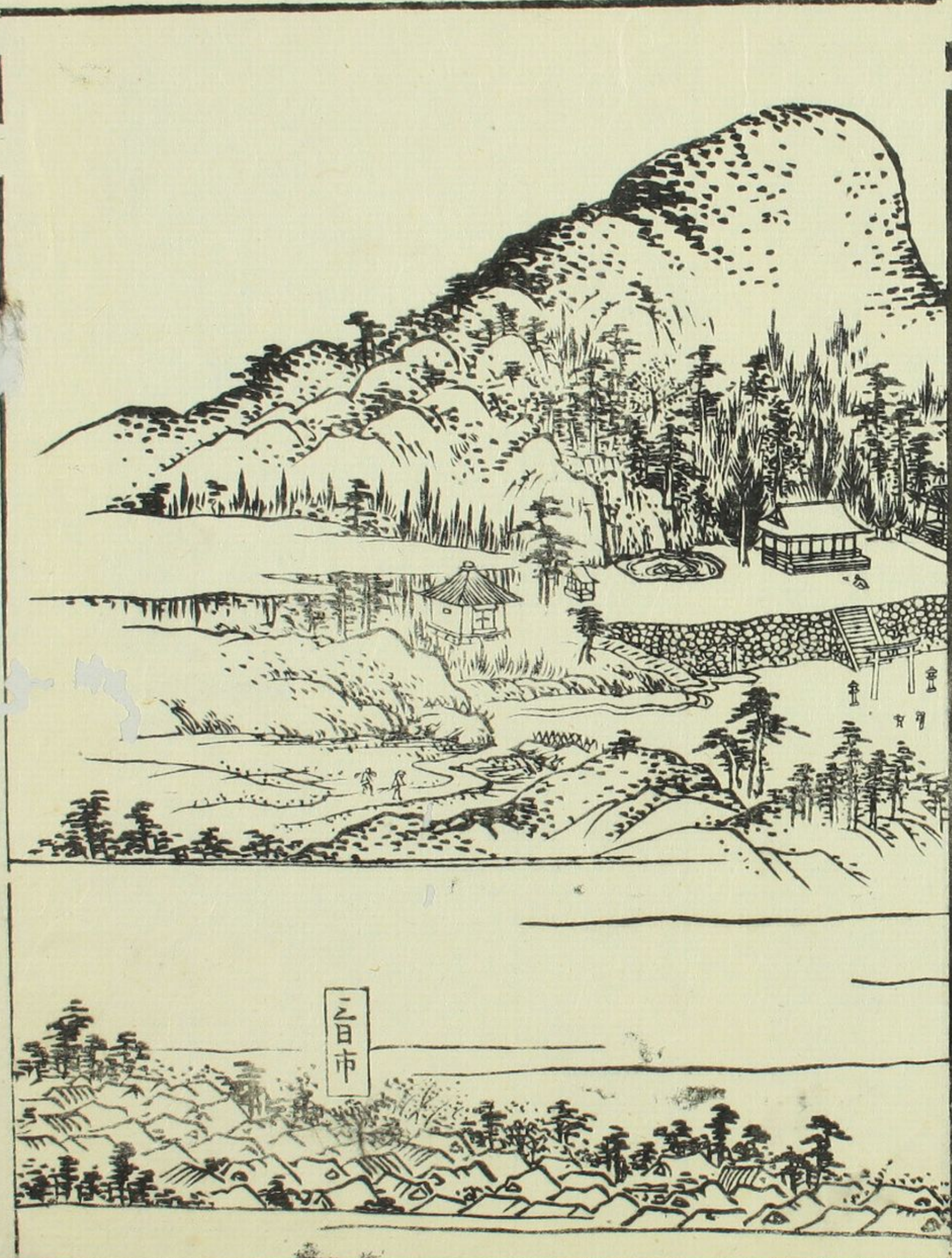
の事ありとあり



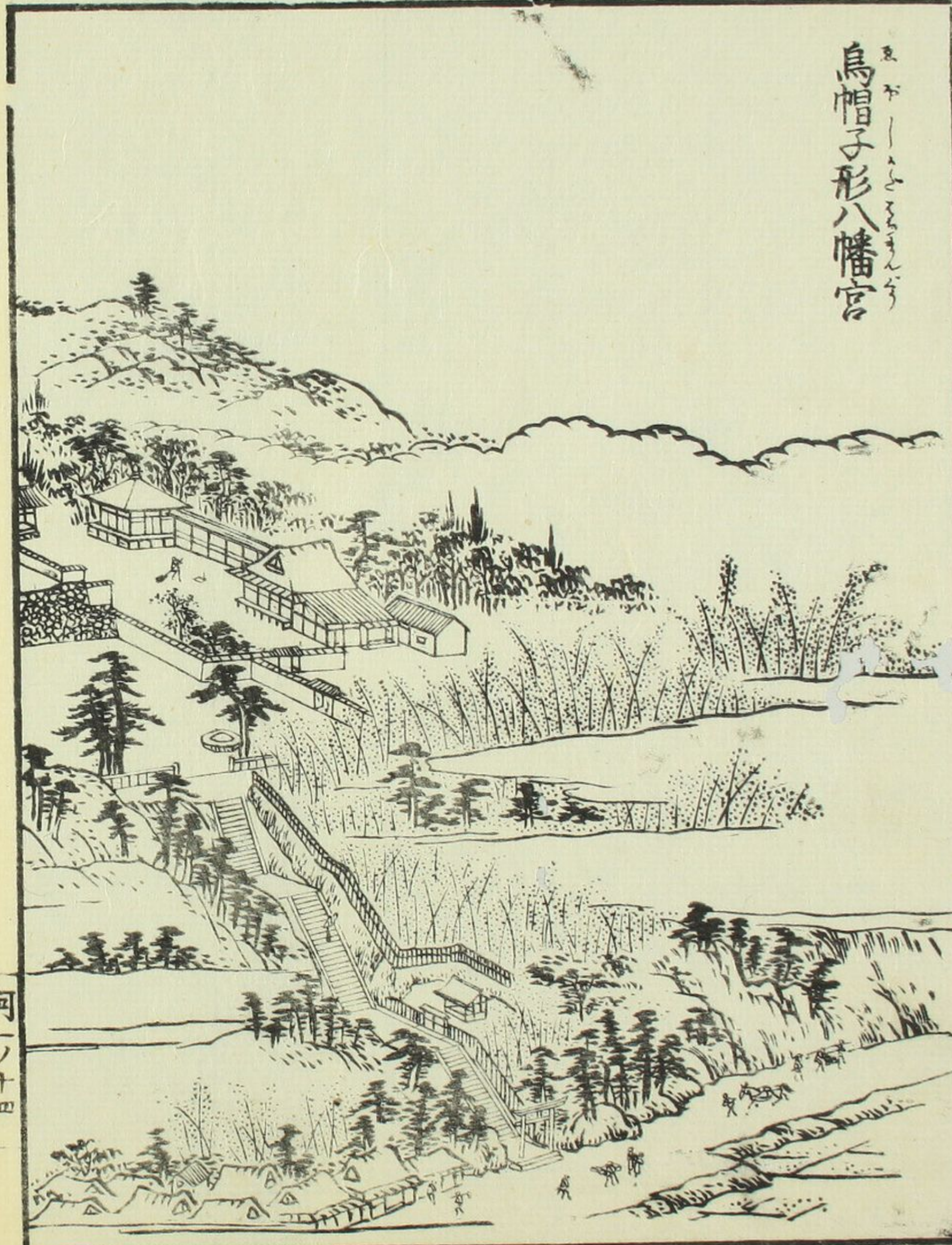
香之滝



河ノ十三



二百市



鳥帽子形八幡宮

河一ノ十四

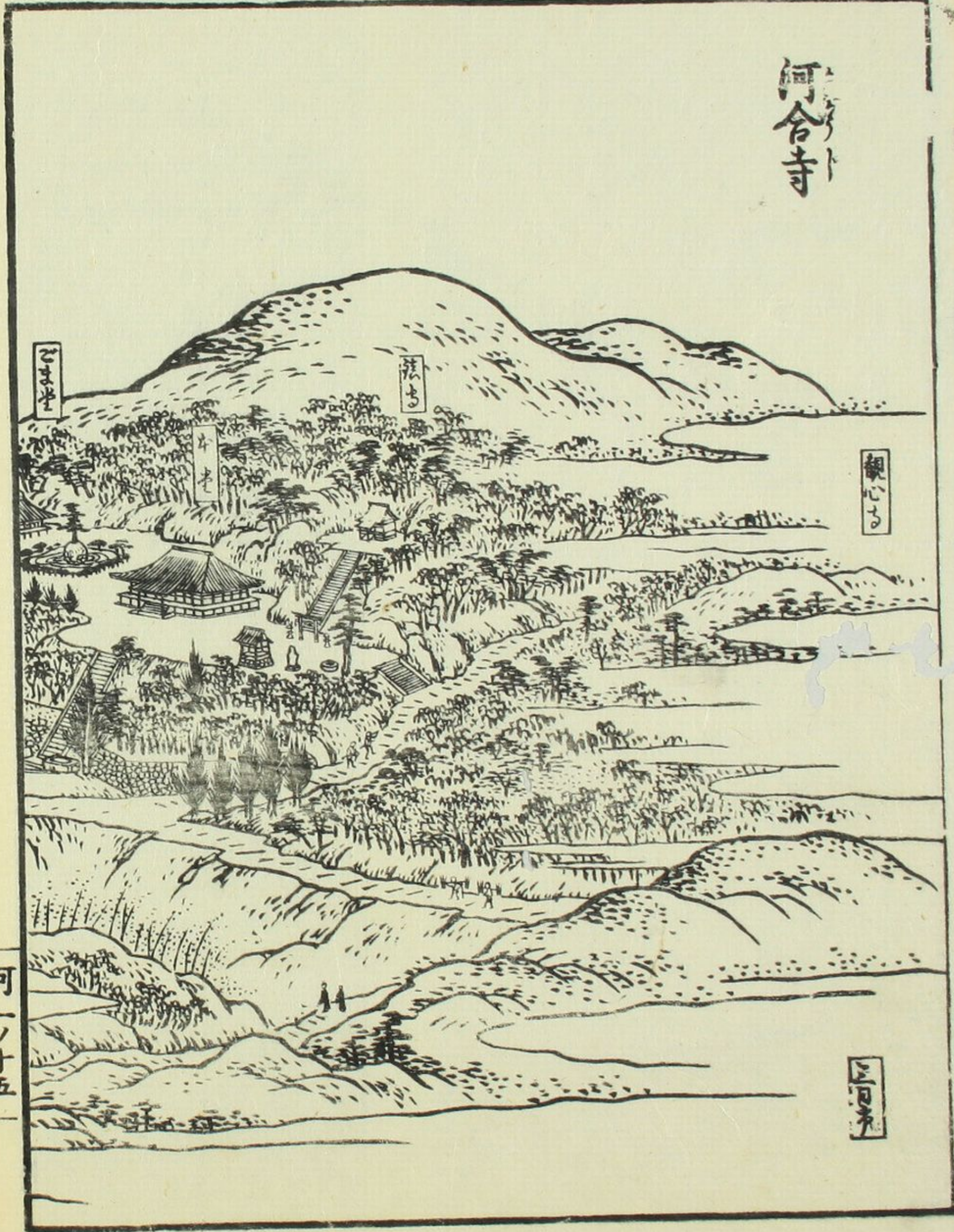


楠公遺愛碑
 服元喬撰
 鳥石山人書

廿六日
 鳥石山人

鳥石山人

河合寺



河一ノ十五

河合寺

河合寺

河合寺

河合寺

藏王嶺

藏王嶺 紀州至平國東へは嶺あり

光瀧寺

本尊不動明王

多宝塔

光瀧 本堂の末あり高五丈一名光明佛飛流玉龍と舞一白虹洞あり

一宇とむとむと化現とす

中より三六丈の附あり

燒ころけぬ細炭といふ不初

炭燒不初といふ

烏帽子形古城

上田北村の上あり

上田八幡宮

上田村上方あり

上原八幡宮

上原村西の丘あり

高向王墓

高向王の側あり

むらひの地も今の高向乃庄内と八幡の神祠あり

仲哀天皇の御宇に宮家あり

日本紀曰 神功皇后二年冬十二月丁亥朔甲午葬文皇於河内國

長世陵 又松下見林の前王廟記云河内國志紀郡惠我長世の西

郡志我長世の今相和れどと云云 皇日今上原の陵墓此地相

長世の陵今さうさうあり

寺の南西浦のやうり

幸豊懐らうとや

錦織神祠

向田村あり

人麿古跡

阿保人麿蓋此人乎

天神祠

本村あり

二十山

延文五年閏四月廿九日の曉栴檀一校五百餘騎

本村あり

下くさくさのめいめいその芳のまを龍泉の二水戸にありて同宗同族
 ともとゆる細川相模守清氏と赤松春冬龍泉の二山陣をもちて居るる龍泉
 の縁波をてアヤ小先をかいらぬは但城切て入るる事又一事せよとて真
 北光鋒といふがれ馬鞍並に旗を志げらるる程を有る相模守とて兄弟と體
 取て肩おかけけ道なき紐かたき龍泉の爲に城戸高櫓の下にお上りり
 横山天神祠 横山村の東涯にあり其側の叢の禱より潮水涌出り
 西條川 石見川とて大井堀京觀心寺等が流るる石見村より
 二日市川とて長登に至りて西條川とて一日見嶺の北より
 流るる石見村より出る叢嶺の麓にあり加賀田村に流るる
 石見川より入る一蔵王峠より出る流るる西條川
 長登より入る西條川とて流るる西條川
 金胎寺古城 横村の上方にあり建武年中 越軍の據りて城十
 七ヶ所の其一とて寛正年中 畠山義就とて亦古に
 寶珠山河合寺 河合寺村の中あり
 真言宗

本尊十一面觀世音 長き人より許賜し金胎兩部大日多又不動明王
 鎮守春日神祠 本堂の側あり河合寺村生土外とて
 河合寺碑 堂前あり銘云 南朝先生子ハ鳥石山人なり
 河内挾山晁子君采以邦大夫世采其封南河合邑
 邑有河合寺邑名馬記曰古者 皇極帝二年勅建
 列朝相繼奉信增脩以至南朝寂為崇觀與州之觀
 心金剛兩寺屹為三大刹勅旨數奉禱事勝國之亂
 諸閣壞廢大半而其國宣及楠氏所令手書至今藏
 鎮馬晁子之立碑於此為寺觀微乎存乎曰否為尚
 楠氏也何以尚之為楠氏遺愛也古者楠氏盡忠乎
 興國正平時南北戰爭數十年矣誠節貫天地知略
 蓋四海恢復之功雖不成全其子其孫三世志業不
 渝實與南朝社稷相終始焉天下後世至于今時莫

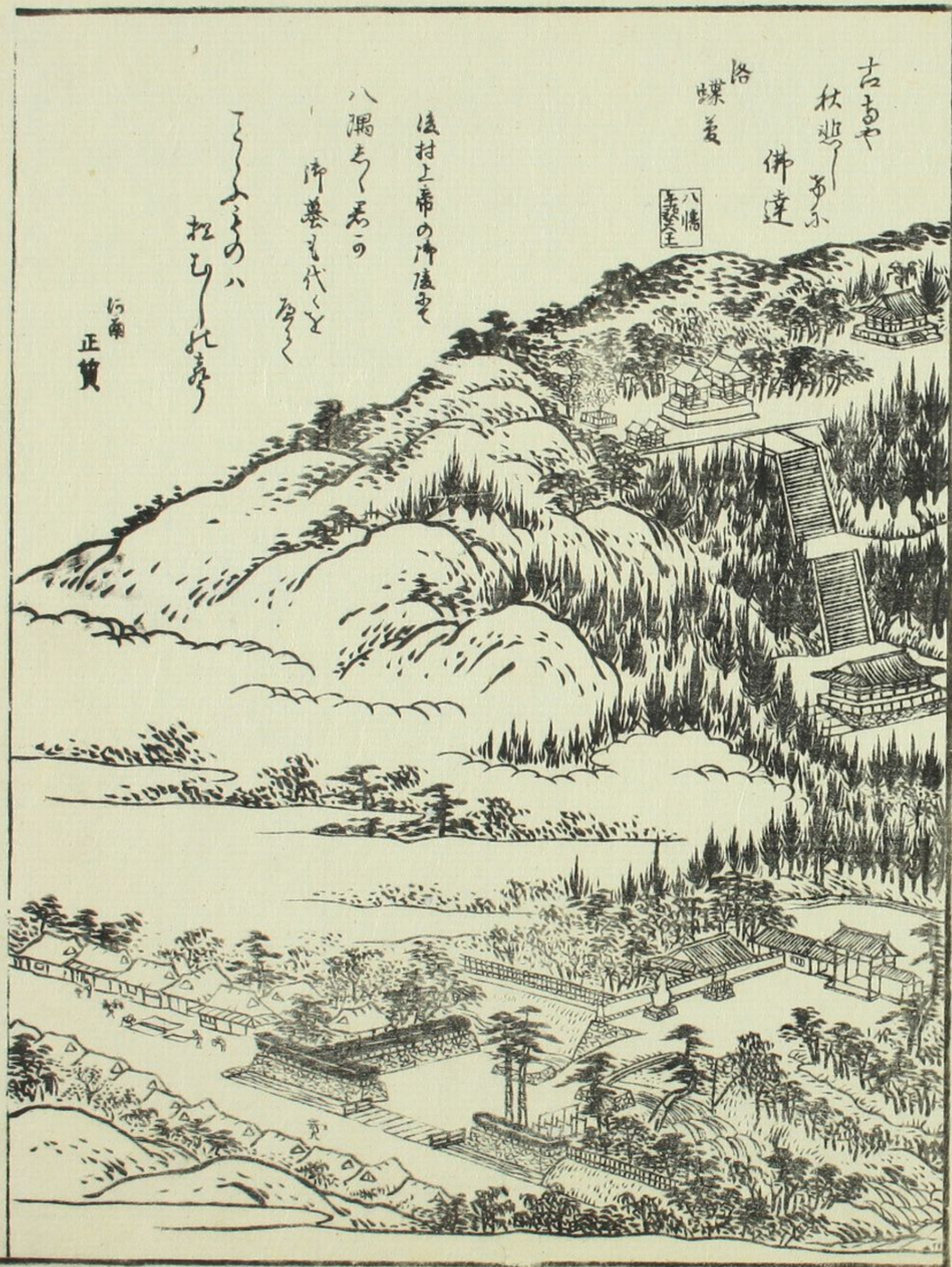
不感激出涕喜言其事焉是為遺愛也為楠氏遺愛
 衆矣曷為獨於此河內與泉攝當其時楠氏世守也
 前此攝有湊川碑泉則未聞焉爾而河內其所基據
 遺愛尤存金剛千早城趾也何以不碑焉晁子曰吾
 嘗略行金剛千早一石不存噫蓋竟外爾蓋河合碑
 則晁子遺愛乎我也遺愛乎我者遺愛乎已也因祖
 之所遠聞而石乎私土甘棠之遺焉往而不愛以君
 子之為亦有樂乎此也楠氏之功德天下後世至于今
 時莫不感激出涕喜言其事焉所見同辭所聞同辭
 所傳聞同辭是謂口碑備矣不必具列其事則不獨
 其遺愛也寺觀雖微乎存後世以楠氏重則楠氏之
 亦獨遺愛於此也此立石之志也寬保三年秋八月
 服元喬撰烏石書晁泰亮立

觀心寺

表門



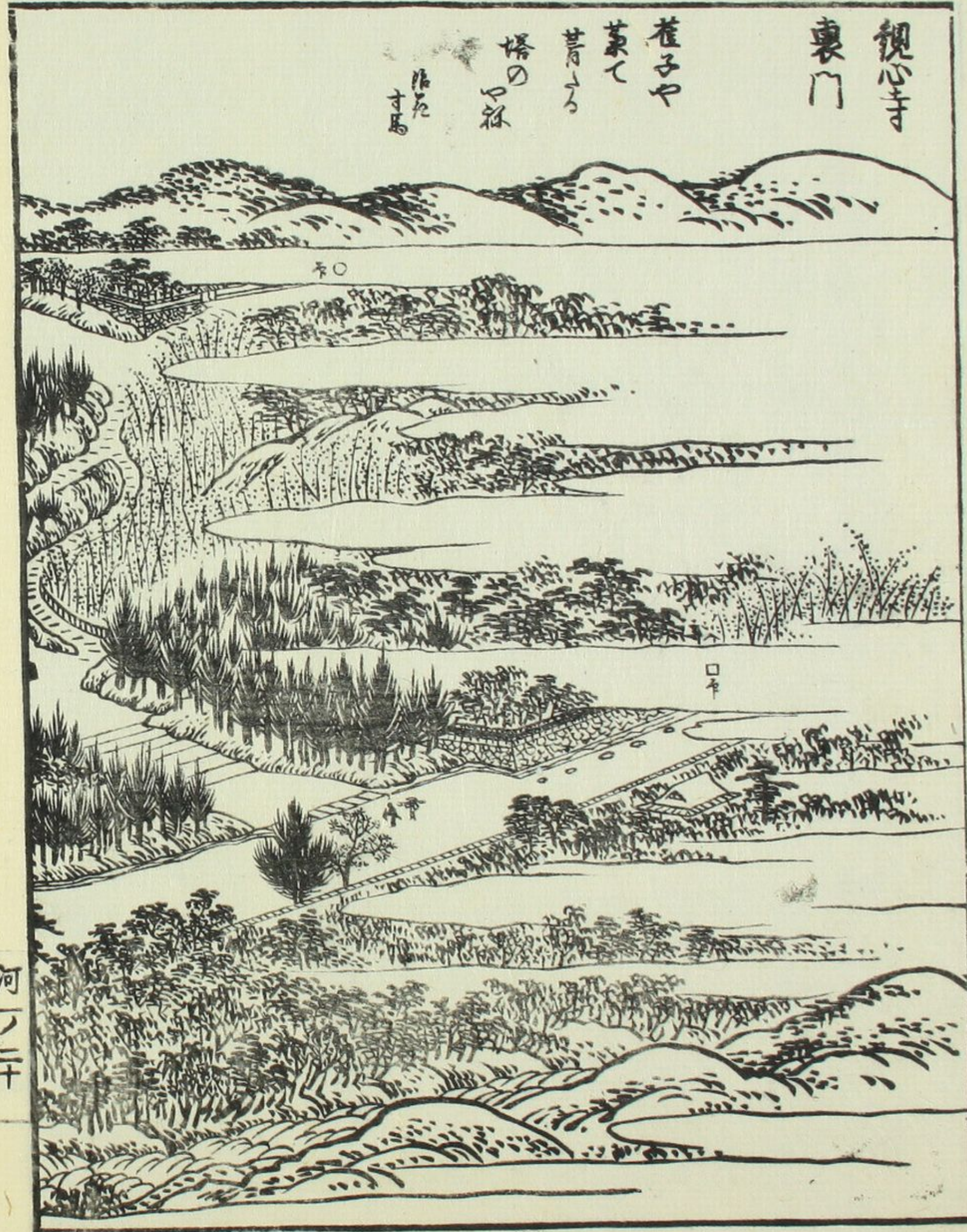




正寶

後村上帝の浄土を
八瀨とて名けり
所築も代々
松のハ
松のハ

古まや
秋悲
佛達
路
蝶美
八瀨
寺



観心寺
裏門
雀子や
葉て
昔より
塔の
心縁
片石
寸馬

河ノ二十

檜尾山觀心寺 觀心寺村あり

本尊七星如意輪觀世音 弘法大師作長六尺八寸脇士不執的玉計尺六寸六分

建挂塔 心柱と大日小表一阿闍梨生持陀表と安す楠正成建立の

形の軍兵も礼拝して塔の九輪を下り灌下は湯たると太平元ふふ河

内形六万の年まで観心寺のふあり後篇も出せり

淨觀堂 弘法大師の徳と安す 經堂 塔のふあり

賀利帝母社 神像毘首獨尊他計寸五分厨子長九寸計分系本

行者堂 西門の内あり役行者 弁財天祠 金堂の東池中心

關伽井 金堂のふあり 七星降降所 塔内七ヶ所

礼拜石 金堂の深五あり弘法大師 招結玉井 賀利帝母社の

系櫻 招結玉井の例あり秀代の

實惠上人廟 金堂の東上り方あり 送道興大師俗姓

故み捨尾傍都々 辨心寺と建堂は後山と檜尾と密法

年六十三元亨釋書 本願院 廟の前あり実惠の徳と

楠正成首塚 延元元年五月廿八日

送は是より息男正成中流滝寛一領し

表微く極の地兵陣城村廣教寺乃境内小埋し

正成相伝の遠作と地心に

卿後土佐の助三郎の地を築ち

傳を彼の楠正成源光國造と

埋むの地ありとを穿ち

領と納の地ありとを穿ち

一式拾州神祇山石あり石柵の北面

傳聞正成教訓子弟眷属

率土之濱莫非王臣爾況

君恩也不如一節以死報

我子弟于茲家族守訓言

有餘歳美名存乎不肖流

立而不耻思惟先祖之餘

憲政五癸丑歳仲春吉且

畠山尾張守墓 正成塚の

謂曰溥天之下莫非王土

所補三州之守誠莫大之

國於聊不忠之輩不可為

專忠貞而不變至今四百

孫衣敝緇袍與衣狐貉者

光矣哉故鑄墉以垂永久

橋成位欽書

後村上院後村上院の奥武町并にあり 崩と右聖

南朝正平廿四年北朝應安二年 二月十日南帝院 崩と右聖

如意輪寺如意輪寺小尊 後村上院と遷奉同年冬十月 足利宮領

細川頼之南朝 奏聞申挿古の如く 持明院殿と之貫寺及

と一代かり不浄治世あり 之種の神嘗北朝 浄治

浄治南 浄和浄遊南 浄上治の 公家武家の

本領本 の如く兵 官加階相違あり 之と再之奏聞と

之とも南朝の公卿武家等これを用 浄和浄遊事

浄和浄遊浄和浄遊 浄和浄遊浄和浄遊 浄和浄遊

信濃上野越中 越中越中 越中越中 越中越中

藤原心園征東將軍 宗良親王九州 征西將軍 良懷親王

勢品北 島の 國司かり まん

南朝授 二年二月十日南方 後村上院の浄七回忌右聖 如意

論寺 小於 大法 舍あり 導師日 誓又 傍正 頼意 其時 宗親 王親

和奇 と深 く頼 意へ 送り 中へ

我ま ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり

志ま ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり

四つ のと たら のか らう 小之 五つ りき のふ けま とお らわ ぬす 南本 製

南方の 皇居 ら金 剛山 の奥 観心 寺と 云深 山ふ れた 右お かく敬 の

迎く ぬれ 所る 其行 候の 浄誓 園に 憑思 居ら 龍泉 赤坂 も

落れ 又昨 日一 昨日 中で 浄方 せ兵 だも 今日 ち多 く浄 敬と 成ぬ

と聞 下る 山人 松人 素内 者と ちち の山 北奥 寺で 敬責

入ぬ と申 沙汰 一た れは 主上 とと ちち の女 院皇 后月 卿と 各

あい うと ちち と懼 恐れ れる 車限 かり 観心 寺官 符曰

寺壹 院 在河 内國 錦都 郡石 川郡 兩郡 南山 中

合山地千五百町

錦部郡以山中一千町

地名仁深野

四至

東限橫岑，西限紀伊道河邊公田，南限小月見谷，北限龍泉寺地，石川郡界。

北限石川家井堰。

石川郡以南山中五百町

四至

東限園見岑，西限岑。

南限上籠，北限石川家井堰。

兼和二年閏二月十二日

官符

右當寺者先師弘和八葉自表華藏蓮北斗七星
 降臨之靈山也峯聳八葉自表華藏蓮北斗七星
 四方更換月園達池入厥壘三密觀念易成覽
 哀中神異之山嶽證云朗改雲心寺密觀念易成覽
 任斯地一印頓證妙蓋以御願道場臻承和明時長
 有所以哉勝地絕秀定御願道場臻承和明時長
 始被主貴寺勅施之官符以爲當寺之精舍也
 定是山下皇道潛衛之伽藍上朝安之精舍也
 後世未資隆之計略者仍勸錄緣起如一件刻三
 專佛紹隆先師和尙之大精舍也
 禮之美功盡勇猛懇丹之至精所造之尊容

也抑斯伽藍者當京師之南峙王畿之內於此

禮佛之取座也和尚減後之今師在日之時拜堂

之禮佛之取座也和尚減後之今師在日之時拜堂

之禮佛之取座也和尚減後之今師在日之時拜堂

之禮佛之取座也和尚減後之今師在日之時拜堂

之禮佛之取座也和尚減後之今師在日之時拜堂

之禮佛之取座也和尚減後之今師在日之時拜堂

之禮佛之取座也和尚減後之今師在日之時拜堂

之禮佛之取座也和尚減後之今師在日之時拜堂

之禮佛之取座也和尚減後之今師在日之時拜堂

之禮佛之取座也和尚減後之今師在日之時拜堂

之禮佛之取座也和尚減後之今師在日之時拜堂

之禮佛之取座也和尚減後之今師在日之時拜堂

之禮佛之取座也和尚減後之今師在日之時拜堂

之禮佛之取座也和尚減後之今師在日之時拜堂

之禮佛之取座也和尚減後之今師在日之時拜堂

之禮佛之取座也和尚減後之今師在日之時拜堂

之禮佛之取座也和尚減後之今師在日之時拜堂

中納言小任氏和銅元年從三位小叙一
攝津大友小任氏同八月薨
僧善藏錦織の人の戒體嚴津みく論ハ通善
係了く博識洽聞其凡の智徳之

河内名所圖會卷之一 終

河内名所圖會卷之一

